

(2) 現地調査

① 調査内容

夢洲及び舞洲における植物の状況を把握するため、現地調査を実施した。

調査概要は表 5.11.3、調査方法の詳細は表 5.11.4、重要な種の生態等に関する参考文献は表 5.11.5、現地調査地点の位置は第 5 章 5.10.1 陸域動物の図 5.10.2 及び図 5.11.2 に示すとおりである。

表 5.11.3 調査概要（陸域植物）

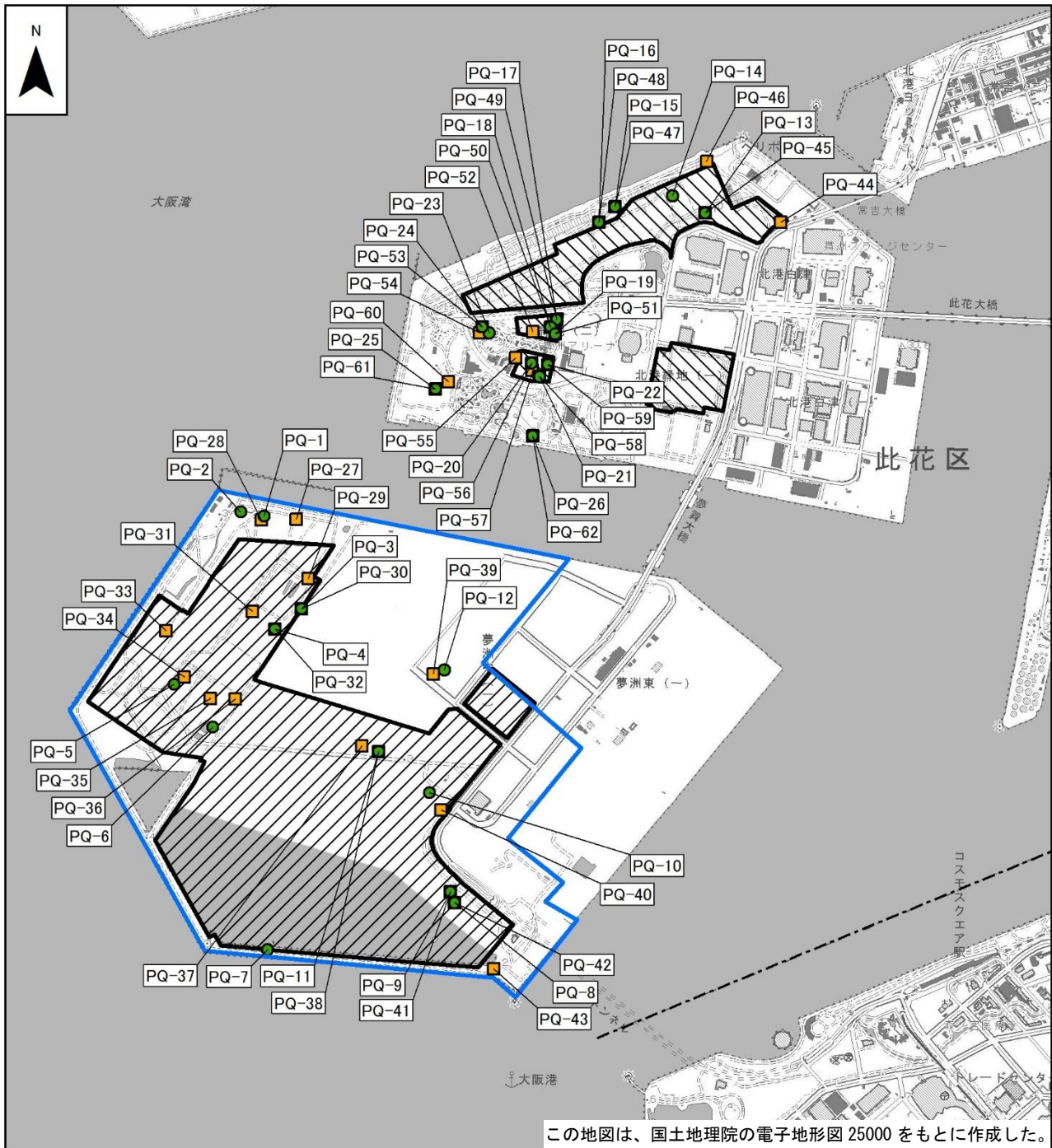
調査対象項目	調査対象範囲	調査対象期間	調査方法
植物相（水生生物含む）	夢洲、舞洲	春季：令和 2 年 5 月 12 日、14 日 夏季：令和 2 年 6 月 22 日 令和 2 年 7 月 16 日～17 日 秋季：令和 2 年 9 月 28 日～29 日	任意調査
植生		夏季：令和 2 年 7 月 16 日～17 日 秋季：令和 2 年 9 月 28 日～30 日	コドラート調査

表 5.11.4 調査方法詳細

調査項目	調査方法	内容
植物	任意調査	調査範囲内を任意に踏査し、生育している植物（シダ植物以上の高等植物）を目視により確認し、種名を記録した。現地での同定が困難な種については標本を採取し、持ち帰って同定した。
植生	コドラート調査 植生図	調査範囲内に存在する各植物群落を代表する地点において、ブラウンプランケの植物社会学的方法に基づき、各コドラート内の生育種、階層の区分、各植物の被度・群度を記録した。また秋季においては、空中写真等を用いて予め作成した植生判読素図をもとに、現地での相観とコドラート調査の結果を反映させて補完し、現存植生図を作成した。図化精度は 1/20,000 とした。








表 5.11.5 重要な種の生態等に関する参考文献

項目	参考文献
植物	「ネイチャーガイド 日本の水草」（文一総合出版、平成 26 年） 「改訂新版 日本の野生植物」（平凡社、平成 27～29 年） 「国土技術政策総合研究所資料 No. 906 道路環境影響の技術手法「13. 動物、植物、生態系」における環境保全のための取り組みに関する事例集（平成 27 年度版）」（国土交通省国土技術政策総合研究所、平成 28 年） 「川上ダムにおける環境保全への取り組みについて」（水資源機構川上ダム建設所、平成 27 年） 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 植物 I（維管束植物）」（環境庁、平成 12 年） 「日本の海岸植物図鑑」（トンボ出版、平成 30 年）



この地図は、国土地理院の電子地形図 25000 をもとに作成した。

凡 例

-  会場予定地
-  任意調査範囲
-  (仮称)舞洲駐車場予定地
- 市区界
-  植物コドラート[夏季] 夢洲(PQ-1~12)
-  植物コドラート[夏季] 舞洲(PQ-13~26)
-  植物コドラート[秋季] 夢洲(PQ-27~43)
-  植物コドラート[秋季] 舞洲(PQ-44~62)

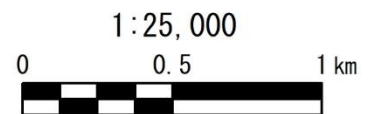


図 5.11.2 植生調査地点

② 調査結果

a. 植物相の状況

植物相の調査結果は、表 5.11.6 に示すとおりである。

現地調査で確認された植物相は 86 科 362 種であり、夢洲では 53 科 216 種、舞洲では 83 科 304 種であった。

表 5.11.6 植物相の調査結果

分類		夢洲		舞洲		主な現地調査確認種
		科	種類	科	種類	
高等植物	シダ植物	1	2	5	7	スギナ、カニクサ、ワラビ等
	裸子植物	1	1	1	1	クロマツ
	被子植物	基部被子植物群		2	3	ユリノキ、クスノキ、タブノキ
	被子植物	単子葉類		13	89	ニワゼキショウ、ツユクサ、クサイ、アオスゲ、タマガヤツリ、メリケンガヤツリ、ナンカイヌカボ、フトボメリケンカルカヤ、ギョウギシバ、メヒシバ、チガヤ、シマスズメノヒエ、ヨシ、エノコログサ、セイバンモロコシ等
	被子植物	真正双子葉類		62	204	ヤブカラシ、アレチヌスビトハギ、ヤハズソウ、クズ、ナヨクサフジ、アキニレ、エノキ、オオシマザクラ、タチバナモドキ、シャリンバイ、オオニシキソウ、アカメガシワ、コマツヨイグサ、ニワウルシ、マメグンバイナズナ、ウシオハナツメクサ、ハマボッス、ハナハマセンブリ、ハマヒルガオ、アレチムラサキ、ツボミオオバコ、アレチハナガサ、カワラヨモギ、セイタカアワダチソウ等
合計		53 科 216 種		83 科 304 種		-
		86 科 362 種				

注：1. 分類及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和 2 年度生物リスト）」（国土交通省、令和 2 年）に準拠した。

2. 主な確認種は、調査範囲の代表的な環境に生育する種を記載した。

b. 植生の状況

植生調査により確認された植生区分及び植物群落は表 5.11.7、現存植生図は図 5.11.3 (1)、(2) に示すとおりである。

夢洲の会場予定地では、造成地、路傍・空地雑草群落、湿地植物群落及び開放水面等が分布していた。舞洲は、市街地・人工構造物等が広い範囲を占め、(仮称)舞洲駐車場予定地は、路傍・空地雑草群落、公園(樹林地以外)、造成地及び市街地・人工構造物等であった。

表 5.11.7 植生区分及び植物群落一覧

凡例番号	凡例名 (植生区分)	植物群落名	群落の概要
1	ヨシ群落	ヨシ群落	水辺及びその周辺に形成されるヨシが優占する草本群落。夢洲では北西部に点在するほか、南西部に広く分布する。舞洲では北西端の1箇所に局所的に分布する。
2	湿地植物群落	メリケンガヤツリ群落 キシユウスズメノヒエ群落 イヌビエ群落	水辺及びその周辺や、水たまり等の一時的な水域に形成される、メリケンガヤツリやキシユウスズメノヒエ、ホウキギク等、湿生またはやや湿生の植物が優占する草本群落。夢洲では局所的に分布するほか、南部に広く分布する。
3	広葉樹林	アキニレ群落(高木)	最上層が高木層で、アキニレが優占する樹林。舞洲北東部の1箇所に局所的に分布する。
4	先駆性低木群落	アキニレ群落(低木) タチバナモドキ群落	最上層が低木層で、先駆性樹種のアキニレやタチバナモドキ、ヌルデ等が優占する低木群落。夢洲、舞洲ともに局所的に分布する。
5	路傍・ 空地雑草群落	メリケンカルカヤ群落 フトボメリケンカルカヤ群落 ギョウギシバ群落 メシバシマズメノヒエ群落 シナダレスズメガヤ群落 チガヤ群落 ススキ群落 シマズメノヒエ群落 エノコログサ群落 セイバンモロコシ群落 メドハギーアレチヌスビトハギ群落 クズ群落 ヨモギ群落 オオアレチノギク群落 セイトカアワダチソウ-アレチハナガサ群落 セイトカアワダチソウ-ヨモギ群落 セイトカアワダチソウ群落	比較的乾性な環境に形成される、様々な1年～多年草が優占する草本群落。夢洲、舞洲ともに全域に広く分布する。
6	植栽樹林群	植栽樹林群	最上層が高木層で、植栽由来のクスノキ、ウバメガシ、アラカン等が優占する樹林。舞洲の公園内に分布する。
7	クロマツ植林	クロマツ植林	最上層が高木層で、植栽由来のクロマツが優占する樹林。舞洲南部の沿岸部に分布する。
8	シバ植栽地	シバ群落	植栽由来のシバが優占する草本群落。舞洲南部の公園内に分布する。
9	公園 (樹林地以外)	オヒシバ群落 公園(樹林地以外)	グラウンドやバーベキュー場、花壇等、樹林地を除く公園施設で特筆すべき植物群落が存在しない区域。舞洲にのみ分布する。
10	市街地・ 人工構造物等	市街地・人工構造物等	住宅地やビル、舗装された道路、人工構造物等が卓越し、植生がほとんど存在しない区域。夢洲では主に西側に分布する。舞洲では主に中央部から西側にかけて広く分布する。
11	造成地	造成地	人工的に造成され植生がほとんど存在しない区域。夢洲では中央部や西側に広く分布する。舞洲では北東部に分布する。
12	開放水面	開放水面	水域のうち、抽水植物や沈水植物等による植生が成立していない区域。夢洲では北西部や中央部、南部に分布する。舞洲では公園内に人工的な池沼として分布する。